

2021.2.27 実施成果報告会

下郷町戸赤

慶應義塾大学 横田ゼミ

チームメンバー



横田 浩一

横田アソシエイツ代表取締役

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授



金子 政宗

慶應義塾大学 商学部 2年



北村 理紗

慶應義塾大学 総合政策学部 3年



片野 里菜

慶應義塾大学 法学部政治学科 1年



大川 真央

青山学院大学

国際政治経済学部国際経済学科 4年



鈴木 彩乃

青山学院大学

国際政治経済学部国際政治学科 3年

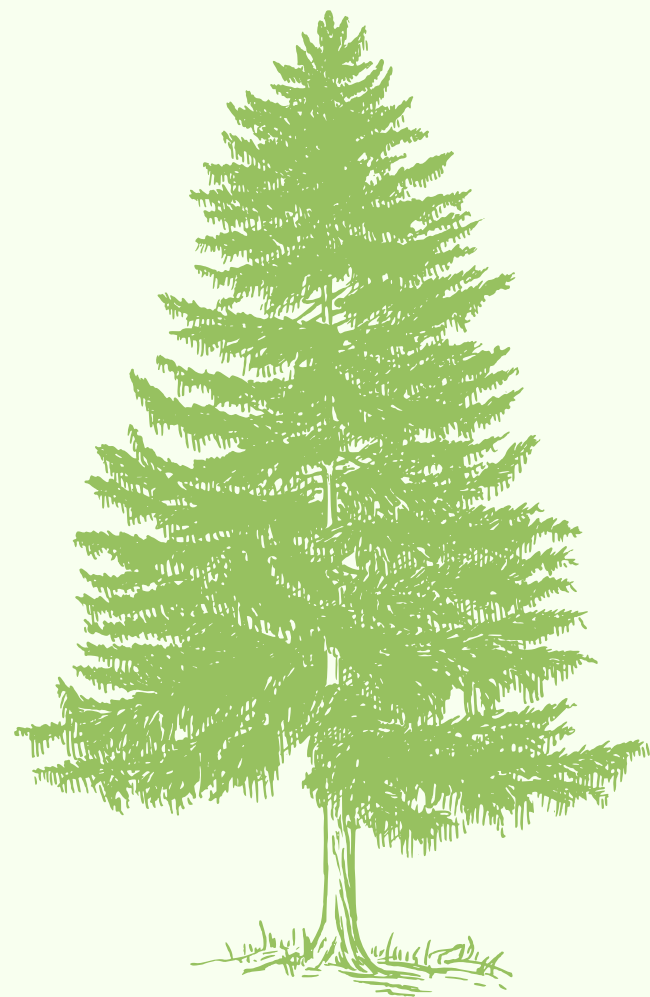
発表内容



1. 活動実施前のフィールド集落のイメージ
2. 活動による発見
3. 活動内容
4. 今後の関わり方

活動実施前の 集落のイメージ

下郷町戸赤地区



【戸赤地区】

「イメージがしづらい」

「どこだろう？」

戸赤地区については、聞き馴染みがなく、正直、全く分からなかった。

【下郷町】

「観光地として聞いたことがある」

「なんとなく知っている、イメージはできる」

「下郷？どこだろう」

メンバーの中には観光地として知っている人はいたものの、知らない人が多かった。

活動による発見

プラス面

- 自然が魅力的
- 若者世代への期待が大きい
- 観光資源が豊富

マイナス面

- 知る機会があまりない
- ポテンシャルを発揮しきれていない
- 活性化へのパワーが足りていない

『外部から人を招くことの意義は大きい』

活動内容

活動の目的

下郷町と都市部の中高生を集めて、廃校になった校舎を活用した宿泊施設「やまざくら」を拠点とした教育プログラムを実施する。本活動を通してそれぞれの学生が交流し、交友を深めることで以下を実現し、すべての参加者が相互に学びあい視野を広げる機会を目指す。

- ① 下郷町の学生が地元の魅力を再認識する
- ② 都市部の学生が田舎暮らしを知り、戸赤地区の良さを知る
- ③ 戸赤地区における交流人口の増加



活動内容

実施内容

- 戸赤地区を含む下郷町の良さの発見
大内宿、塔のへつり、湯野上温泉などを散策
- 戸赤地区地区長との対談
戸赤地区の歴史、戸赤地区の良さについてやまざくらにて地区長に伺い、その様子が福島民報に掲載された。
- 中高生向き教育プログラムの開発
下郷町や戸赤地区の魅力発信、交流人口の増加を目指し、教育プログラムを開発。



2022年1月1日

福島民報

「慶大生ら体験学習拠点に」

慶大生ら体験学習拠点に

持続可能な社会考える



SDGsに関する体験学習などの拠点となる旧櫛原小戸赤分校

下郷の旧櫛原小戸赤分校



東京の中高生ら招く

「隣に山があるからすぐ自然を散策できる」「川遊びも体験学習のメニューに加えよう」。学生グループ代表の金子政宏さん(慶応大商学部二年)や北村理紗さん(同大総合政策学部三年)ら五人は十二月上旬、旧櫛原小戸赤分校に宿泊し、戸赤地区の星隆雄区長(右)らと意見を交わした。

早ければ今年の夏休み期間から東京都の中学校生らを招いた大規模な企画を数日間にわたって開催する方向で準備を進める。

学生グループは慶応大大学院の横田浩一特任教授の「横田ゼミ」で地方創生などを学んでいる。横田教授は多くの企業にSDGsに関する取り組みのアドバイスをしている。ゼミに参加する学生らも中高生を対象としたSDGsのコンテスト運営などで関わっている。

下郷地域おこし協力隊の森田愛理さんが横田教授と以前から親交があったことから連携が実現した。森田さんは戸赤地区について「豊かな自然の中、SDGsの重要性

を肌で感じることができ、貴重な地域」話す。体験学習を通じ水の大切さ、木がどう成長し、どう住民の生活に恩恵を与えるかなど大学生が中高校生や地元の子ともちに解説する計画だ。SDGsの掲げる十七の目標の中でも特に六番目の「安全な水とトイレを世界中に」や十五番目の「陸の豊かさを守ろう」などに理解を深めてもらう。

星区長は「若い学生のアイデアやネットワークを有効活用して地域活性化につなげてほしい」と期待を寄せている。

戸赤地区はかつて木材加工の特殊技術者である木地師(きじ)が住む地域として栄えた。廃校の周辺には「戸赤のヤマザクラ」として県内有数の桜の名所がある。

旧櫛原小戸赤分校は廃校となった後、下郷町が改築し宿泊体験施設「戸赤自然体験あそびの学校・やまざくら」となっている。戸赤地区が町から管理・運営を委託されている。高齢化や人手不足から施設では宿泊希望者の受け付けを一時休止。さらにコロナ禍が重なり、ここ二年ほどは活用していなかった。



星区長(右から2人目)と話し合う学生ら

今後の関わり方

中高生向き教育プログラムの実施

下郷と東京の中高生を集め、やまざくらを拠点として、プログラムを実施。詳細はしおりを参照。

<対象>

下郷町と都市部の中高生

<下郷町でプログラムを開催する理由>

- 適疎で自然との距離が近く豊かな下郷町であれば、落ち着いて自分自身と向き合うことができる
- 地理的要因により、情報資源や同世代の若者にアクセスできない下郷町の中高生のキャリア選択の幅を広げることにつながる

下郷町の中高生にとって

1. 下郷内部や外部の同世代と交流し、仲間を作る
2. 外部の視点でも町を体感し、下郷町の魅力を再発見する
3. 人生のロールモデルとなる大学生と出会う

都会の中高生にとって

1. 同世代との交流をし、仲間を作る
2. 人や自然など下郷町の魅力を知り、再来する
3. 地方での暮らしを体験し、その魅力を知る
4. 人生のロールモデルとなる大学生と出会う





ご清聴ありがとうございました！

慶應義塾大学 横田ゼミ

ホームページ

<https://www.anchor-project.org/>

